



# 真菌医学研究センター Monthly セミナー

平成27年5月26日(火) 17:00~18:30  
千葉大学真菌医学研究センター 大会議室

## COPDの増悪因子としての感染症の重要性

慶應義塾大学 医学研究科  
教授 別役 智子

世界的に慢性閉塞性肺疾患(COPD)の患者数と死亡者数は近年、増加の一途をたどっている。現在、日本には約530万人のCOPD潜在患者がいると推測され、「健康日本21」の課題の一つとして、国を挙げてその対策に取り組んでいる。COPD患者の約半数は急性増悪により死亡する。急性増悪は、COPD患者に繰り返して起こり、致死率も20-40%と高い。ウイルス、細菌による気道感染を契機とされることが多いが、その病態は明らかではない。その中でも肺炎球菌感染はCOPD急性増悪の原因の約15%を占めるとされている。我々は、肺炎球菌気道感染によるCOPDの急性増悪モデルを確立し、そのCOPDの増悪因子としての感染症の病態と新たな治療戦略について研究を進めている。

世話人：笹川千尋（千葉大学真菌医学研究センター長・東京大学名誉教授）  
亀井克彦（千葉大学真菌医学研究センター 臨床感染症分野）  
連絡先：亀井克彦（E-mail:kkamei-chiba@umin.ac.jp）

千葉大学 真菌医学研究センター & 東京大学 医科学研究所 細菌感染生物学社会連携  
研究部門・特別推進研究「病原細菌の自然免疫克服戦略の解明とその応用」 共催